

〈 学校の重点目標及び校内研究と連動した授業改善のフローチャート 〉

(授業改善の5点セット)

H29年度 由布市立阿南小学校

(学校の重点目標：知) 学び合い 助け合い たくましく生きる子どもの育成

(校内研究の主題) 自分の思いや考えを持ち、学ぶ楽しさを感じる子どもの育成

(児童の現状)

○見通しを持たせる工夫に取り組んできたことにより、授業の流れが子どもたちの中に定着し、見通しを自分で考えることができるようになってきた。また、解決の見通しを持たせることで、少しずつ自分の考えをノートに書くことができるようになってきた。

△既習事項等が徹底できておらず、見通しから課題設定、課題解決という流れが成立しにくい場面がある。自分の考えや解決方法を説明する力が不足している。

(教員の指導の現状)

見通しを持たせ、自分の考えを書かせ、友だち同士で交流させることの有効性を共通理解することはできている。その一方で、課題を生み出すためにあるはずの見通しを、あまりに幅広く持たせすぎることによって、見通しから課題へスムーズにつながらない場面も見られた。見通しを持たせるための既習事項の徹底と、子どもたちが思考の途中であってもその段階までの考えを出し合うことができる交流の仕方も工夫していく必要がある。

(1. 授業改善テーマ)

子どもたちが、スムーズにつながった見通しと課題を踏まえて、自分なりの考えを持つことができ、それぞれの考えを交流することができる授業の構築



(2. 授業改善の重点)

「つながりのある見通しと課題」と「子どもたちの考えの交流」を各学年の実態に応じて工夫・追求する。



(3. 取組内容①)

子どもの実態に即した「つながりのある見通しと課題」を工夫する。



(4. 取組指標①)

子どもが、考えるべきことを明確にとらえることができる、「つながりのある見通しと課題」を工夫する。



(5. 検証指標①)

○見通しと課題をうけて、全ての子どもが自分なりの考えを持つことができる。

(学期途中・学期末の児童への実態調査によって把握・検証)



(3. 取組内容②)

子どもの実態に即した「子どもたちの考えの交流」を工夫する。



(4. 取組指標②)

子どもたちが、たとえ思考の途中であっても、それぞれの考えを出すことができ、お互いの考えをつなげて考えることができる「考えの交流」を工夫する。



(5. 検証指標②)

○全ての子どもが、「考えの交流」の場で自分なりの考えを出すことができる。

○学期末アンケートで、全ての子どもが「授業がよくわかる」と回答する。

(学期途中・学期末の児童への実態調査によって把握・検証)